

## NPO 法人JAVCOM 主催 ニュービジネス研究委員会 7月勉強会 テクノスポーツ「HADO」体験・勉強会



日時：2019年7月17日(水)

16:00～18:00

会場：meleap オフィス

講師：株式会社meleap 本木卓磨様

7月17日、NPO 法人JAVCOM ニュービジネス研究委員会の主催にて「テクノスポーツHADO」の体験並びに、勉強会が開催された。

はじめに、株式会社meleap 本木様より、「Technology×Sport のビジネス」について説明頂いた。

テクノスポーツとは、サッカーや野球、テニス等のアナログスポーツから工業社会のモータースポーツ、そして今現在、情報社会によって作られたネットワークやセンサー等によって実現できるスポーツがテクノスポーツとなり、今後さらに世界的に成長できると考えている。



### 1. HADO/ テクノスポーツとは何か？

今回、講演頂いた「HADO」だが、ARの技術を使い、対戦型スポーツの競技として世界的に注目を集めている。プレイヤーはもちろん、モニター越しに観客もリアルタイムで楽しめることができる。

◆競技内容：プレイヤーは、ヘッドマウントディスプレイと



AR スポーツ HADO 説明



体験風景

アームセンサーを装着し、専用フィールド上でバトルを行う。

◆ルール：基本的に3対3でエナジーボールをぶつけて攻撃したり、シールド（盾）を張ったりしながら、相手のライフを多く削ったほうが勝ちとなる。

特徴として、従来のスポーツとは異なり、子供から大人まで男女問わず、取り組むことができるスポーツであることが魅力。

## 2. 「HADO」はどのように誕生したか

創業者の代表である福田様が、ヒーローに憧れ、魔法を使いたいと思ったことが始まりとのこと。

当初は、VRでブロードタイプのようなゲームが始まりだったが試行錯誤の上、スポーツで勝負しようと決められた。その理由として、思っていたより運動になる、ゲームは飽きられてしまう、ゲームだと大手に勝てない等から、スポーツの文化を根付けたいと考え、2014年10月頃からテクノスポーツとして動き出したとのこと。

## 3. 「HADO」が行っていること

今現在取り組んでいることとして、i) プレーヤーを増やすこと、ii) プレーフィールドを増やすこと、iii) 観戦者を増やすことを目的として行っているとのこと。

特に力を入れているのが、i) と ii) で、そのためには、各店舗の環境を良くし、体験入店を増やしていくことに注力されている。

現在の店舗数としては、世界26ヶ国、65店舗に展開されている中、海外への展開が多くされており、売り上げについても海外が8割程度占めているとのこと。

株式会社meleap様では、大会の運営も行っており、年1

回世界大会を開催しており、毎週1、2回、年間90大会ぐらい開催されており、日本が圧倒的に強いとのこと。

## 4. 「HADO」/ テクノスポーツの今後

「HADO」に取り組んでいる中で、資金調達も行っているとのこと。

やはり、施設型ビジネスだけで取り組むことが厳しいため、基本的には資金調達を行い、頂いた資金をテクノスポーツ市場に投資している段階であり、これまでの累計調達額は、約11.1億円の調達できたが、来年は30億円を目標に取り組まれている。

その理由として、目標である「サッカーを超えるビジネスをつくり世界一のスポーツにすること」

大きなビジネス展開をするため、BtoBではなくBtoCで取り組んでいく方針とのこと。

テクノスポーツならではの進め方で、とにかく観客を集約する協議をつくっている。

また、いつでもどこでもプレーができる遠隔対戦を実現させ、代表戦を多く開催させる。

テクノスポーツは、プレーする選手はもちろん、観ている側からも楽しめ、リアルなスポーツではなし得ないことを実現できる可能性が高く、新しいスポーツの価値や魅力がある。今後も市場の拡大を続けるものとみられ、多くの関心や注目が寄せられるのではないかと感じる。

今回の勉強会で私たち映像に携わる側にとっても、新しいビジネスを見つけ出せた良い勉強会だったと思う。

(文責：株式会社朋栄 濱田亮祐)

NPO 法人JAVCOM主催 第155回セミナー  
**AIでどう変わる企業経営は  
 ～ AI活用がもたらす未来の経営 ～**

この章は前号のJAVCOM NEWS 134にて同一タイトルにて掲載しておりますが、本号ではより詳細な内容を掲載しております。



講師  
 富山 和彦氏



日時：令和元年7月9日(水)  
 15:30～16:50

会場：富士フィルム 西麻布ホール  
 東京都港区西麻布 2-26-30 1F

主催：NPO 法人 日本ビデオコミュニケーション協会  
 特別協賛：富士フィルム(株) 伊藤忠ケーブルシステム(株)  
 後援：ITVA-日本／(一社)映像情報メディア学会／(公社)映像文化製作者連盟／(一社)ACC／(一社)全日本テレビ番組製作社連盟／(一社)日本アド・コンテンツ制作協会／(一社)日本映画製作者連盟／(一社)日本映画テレビ技術協会／(協同)日本映像事業協会／(一社)日本映像ソフト協会／(一社)日本ポストプロダクション協会／(一社)日本民間放送連盟／ジャパン データ ストレージ フォーラム／NPO法人映像産業振興機構／(一社)日本映像・音楽ライブラリー協会／(株)放送ジャーナル社／(有)ユニ通信社／(株)映像新聞社／(株)ユニワールド ※ 順不同

～ 開催主旨 ～

クラウド、ビックデータ、ものがネットにつながるIoTの普及と2020年に次世代高速通信5Gが通信インフラにより実現化を目指す中、各産業で人工知能(AI)の活用が加速化し、我々を取り巻く環境が著しい変化を迎えている。

本セミナーは、業界各社の今後の企業戦略に役立つ内容として企画したものであり、長年企業再生の第一人者であり、AIに精通されている(株)経営共創基盤(IGPI)代表取締役CEO富山和彦氏に登壇して頂き、AI活用で変わる未来経営について講演を行って頂いた。

◆ 講師プロフィール ◆



株式会社経営共創基盤(IGPI)  
 代表取締役 CEO 富山 和彦氏

東京大学法学部卒、スタンフォード大学経営学修士(MBA)。

ポストンコンサルティンググループ、コーポレートディレクション代表取締役を経て、2003年に産業再生機構設立時に参画しCOOに就任。

カネボウ再建を成功させる。解散後の2007年、株式会社経営共

創基盤(IGPI)を設立。

企業再生の第一人者として、JALはじめ多数の企業を立て直す。パナソニック社外取締役、東京電力ホールディングス社外取締役。財務省財政制度など審議会委員、内閣府税制調査会特別委員、内閣官房まち・ひと・しごと創生会議有識者、内閣府総合科学技術・イノベーション会議基本計画専門調査会委員、金融庁スチュワードシップ・コード及びコーポレートガバナンス・コードのフォローアップ会議委員、経済産業省産業構造審議会新産業構造部会委員、Jリーグアドバイザー他。

近著に、『なぜローカル経済から日本は甦るのかGとLの経済成長戦略』『選択と捨象』『決定版これがガバナンス経営だ!』『AI経営で会社は甦る』『社長の条件』他。

## 第 155 回セミナー AI でどう変わる企業経営は ～AI 活用がもたらす未来の経営～

### ～技術革新とは～

“Innovation”は日本語では「革新」と訳されるが、それには新しい活用を見つけることも含まれている。

1900年代初頭に自動車を普及させたのはフォード社であるが、それまで1台1台手作りをしていた生産方式を流れ作業に変えて量産化したため、価格もそれまでの10分の1になり、中産階級の人が持てるようになったこと。

流れ作業に気が付いたきっかけといわれているのは、牛の屠殺場で肉がぶら下がりながら解体して、いろいろな部位に仕分けられていくことを見て、映画の逆回しを思い浮かべ、解体した部位を戻していけば最後は牛になると想像し、自動車を生産するときに、部品を各場所で付けて行けば最後に自動車になると思ったそうで、1日で10台の生産だったものが100台も同じ人数で作れるようになった。

これは「イノベーション」は他分野でやっていることの導入や組み合わせなどでも起こることで、まったく斬新なアイデアが必ずしも必要では無いことも示している。

### ～平成30年間の技術革新～

平成の30年間に起こった事を端的に表すと、「市場経済圏の全世界化」と「デジタル革命」が進展したことで「破壊的イノベーション波の拡大」がいろいろな分野で進んだとのことであった。

その例として、1990年代のインターネット黎明期に一世を風靡した米国のYahooやNetscapeは現在どうなっているのだろうか。

Yahooは元々検索エンジンをはじめとしたポータルサイトの運営企業であり日本でもブランド名は現存している。一方、NetscapeはNetscape Navigatorを起源とするウェブブラウザの開発元であるが、現在ではいずれも他

企業に買収されている。

また、かつてのプラットフォームであるAOLは、2017年6月、Yahooと統合し新たにOathとなった。

このように、インターネット黎明期に存在していた各種サービスを行っていた会社も、デジタル革命の進展によって他企業に買収若しくは消滅していった会社も数多い。

そして富山氏の分析によれば、「新興国の勃興と日本経済」として

- ・長期的な経済成長力は、「人口」と「一人当たり生産性（＝平均的教育水準）」
- ・中華圏やインド圏が、量的にも質的にも成長している
- ・多様性、個別性と普遍性が入り混じる経済圏（世界でも最も先端的で、競争の激しい市場でもある）
- ・日本の幸運…気候温暖、美しい自然、海の幸・山の幸、豊かな文化に恵まれ、かつ政治的、法的にも安定した「東アジア」の国であることを挙げている。

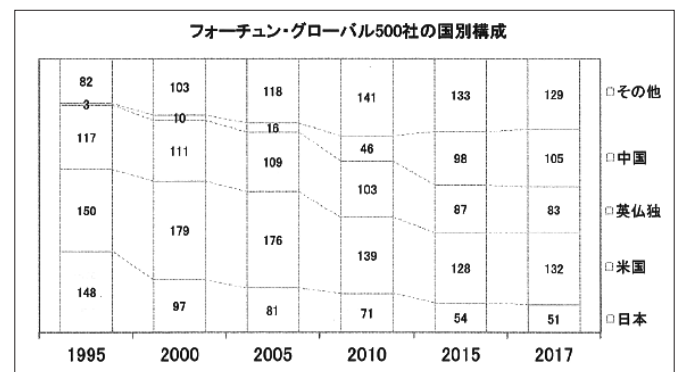
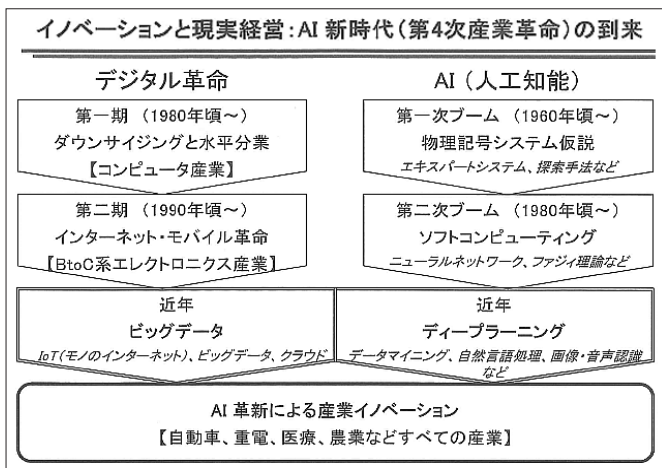
本来改良型イノベーションは、日本の強みであり、実際に改良型の会社が残っているケースもある。

海外ではアップルの現最高経営責任者（CEO）であるティム・クックも改良型で、破壊と改良の両方をアップルにもたらした。また、「GAF A」とは、Google、Apple、Facebook、Amazon.comの頭文字を並べたものであるが、その中でゼロベースから立ち上がった会社は皆無である。

### ～日本企業の低迷～

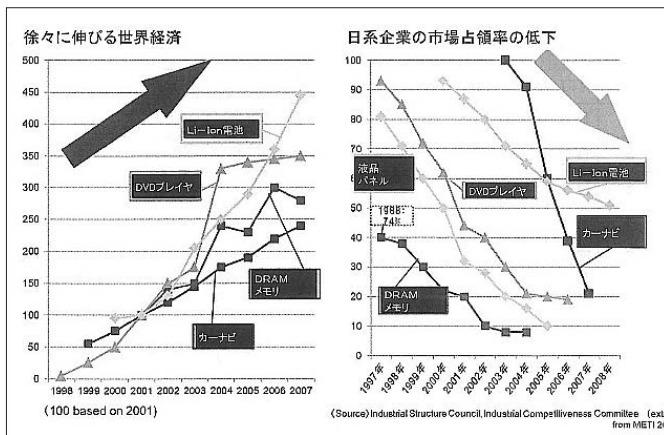
平成元年のころの世界時価総額ランキングでは、NTT、日本興業銀行、住友銀行など、日本企業の名前が上位を占めていたが、平成30年になるとアップル、アマゾン、アルファベットなどが上位を占め、日本企業の名前は上位10社中には1社も見当たらなくなった。

また世界経済における日本企業の地位という面を見ても、グローバル競争の中で日本経済・企業の地位が低下して



おり、かつては発展途上国と言われていた中国やインドなどの国が新興国とよばれ上位を占めるようになった。

その裏付けにもなっている経済産業省の資料の中において、1998 年からの 10 年間、世界経済では大幅に伸びた「Li-ion 電池」「DVD プレイヤー」「DRAM メモリー」「カーナビ」などの製品であったが、日系企業の市場占有率は大幅に下落しているのがわかる。



あるが、コダックは主力商品であったフィルムに固執したのとは逆に、富士フィルムは、「デジカメ」「医療」に経営資源を集中させた事が功を奏したといえる。

同様に「ブロックバスター」対「USA トゥデイ」、「日本の電機メーカーの AV・通信事業群」対「アップル」、大多数の「パッケージソフトメーカー」対「マイクロソフト」、「ダイエー」対「セブン & I ホールディングス」、「大多数の情報誌産業」対「リクルート」などが挙げられる。

このように、既存のものに固執せず、新しい分野に投資できるか？が勝負どころである。

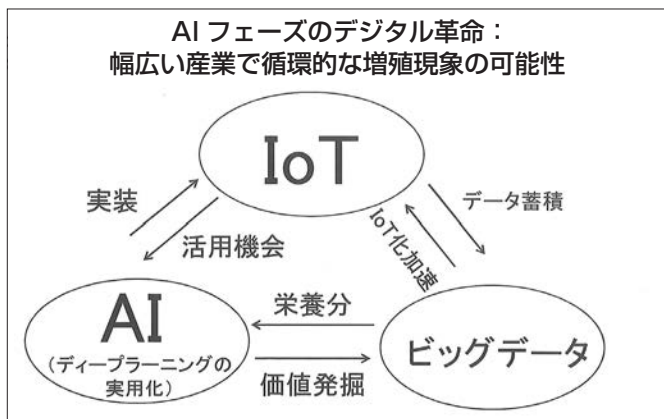
また映像関連業界においては、顧客はゲーム (Virtual) に金銭を払わなくなりつつあり、ライブコンテンツ (Real) に向かっているという。

これからの日本企業はこのような状況を鑑みて、将来のために時代の潮流を視野に入れた「破壊的革新」を起こさなくてはならないと思われる。

本来「経営力≒意思決定力×実行力(現場力)」であるが、日本企業の潜在的な致命傷は意思決定力の低劣さにある。このように考えると、必ずしも大企業が有利とはいえない。なぜなら中小企業は経営者の意思決定の速さという強みがあるからである。

企業経営の意思決定の型としてトップダウン(社長や会長、役員などのトップが意思決定を行ない、それを現場社員に指示として下って、事業を推進する経営スタイル)か、ボトムアップ(現場社員からの提案を基に、トップが意思決定していく経営のことで、現場のアイディアや意志を経営陣が吸い上げ、運営していくタイプの経営)の2種類があるが、いずれにせよ従来のような「巧遅か、拙速か」ではなく、「拙遅か、巧速か」の時代になっており、今の日本では同質性、連続性を旨とするガバナンス(統治)システム、人事組織システムの弱点が露呈している状況である。

- ～日本企業が直面する現実：決断負け、戦略負けの連続～
- ◇ 経営環境…危機の連続、新興国のダイナミックな市場競争(相手はアニマル!)、破壊的イノベーションの波
  - ◇ 経営力≒意志決定力×実行力(現場力)
  - ◇ 日本企業の潜在的な致命傷は意志決定力の低劣さ
  - ◇ 現場力、すり合せ、ボトムアップの畏
  - ◇ 「巧遅か、拙速か」ではなく、「拙遅か、巧速か」の時代
  - ◇ 同質性、連続性を旨とするガバナンスシステム、人事組織システムの弱点が露呈



～イノベーションと現実経営～

また「イノベーションと現実経営」において、デジタル革命は、第一期が1980年頃から起こり、コンピュータ産業はダウンサイジングと水平分業が行われ、第二期は1990年頃から BtoC 系エレクトロニクス産業としてインターネット・モバイル革命が起こった。そして近年ではビッグデータを活用したビジネスが増加しているのがわかる。

AI (人工知能) の分野では、ひと足早く第一次ブーム

～破壊される企業と成長力に転嫁できる既存企業～  
まず、破壊された企業として名前が挙げられるのが「コダック」、それと対比して成長したのが「富士フィルム」と「コニカミノルタ」。いずれも元々はフィルムのメーカーで

が 1960 年頃から起こっており、第二次ブームと呼ばれる 1980 年頃ではソフトコンピューティングとしてニューラルネットワーク、ファジイ理論など、さらに近年ではディープラーニングとしてデータマイニング、自然言語処理、画像・音声認識などが誕生しており、これらはデジタル革命と相俟って、AI 革新による産業イノベーションとして、様々な分野の産業にもたらされる事となる。

例えば、1980 年代末期まで、日本の半導体メーカーは DRAM で大きな利益を得ていたために、業界再編の必要性など全く頭の中になかった。しかし日本の DRAM はファブレス (fabless) 化と合併が進み壊滅的状况となった。その原因となったのは、バリューチェーンから外れてしまったためと考えられる。

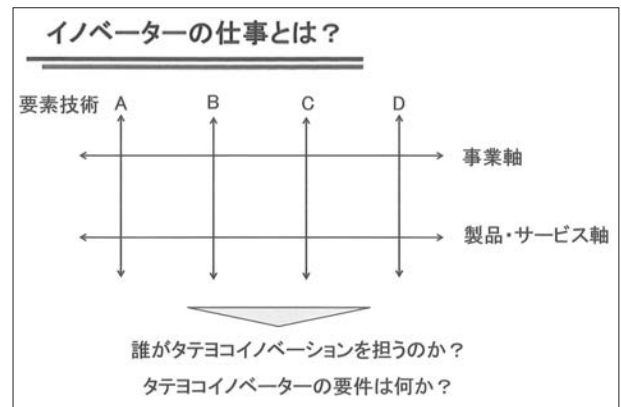
バリューチェーンとは、事業活動を機能ごとに分類し、どの部分 (機能) で付加価値が生み出されているか、競合と比較してどの部分に強み・弱みがあるかを分析し、事業戦略の有効性や改善の方向を探ることである。

バリューチェーンには EMS (自社ブランドを持たずに電子機器の製造や設計を担うサービス、またはその種の企業) とファブレス (fabless、工場を持たない製造業のこと。生産を完全に他社に依存しているため、市場の変化に素早く対応でき、設計や技術開発、研究開発などに専念できる

これから先、AI 革命によってビジネスがどのように変化していくのだろうか。

これからのビジネスには従来の日本で得意とされていた「改良型イノベーション」⇔「同質的・連続的組織特性」と、「破壊的イノベーション」⇔「多様な・非連続的特性」の双方を併せ持ち、相互が協調して行くようなハイブリッド型経営が必要である。

また、その発想のヒントとして、AI が囲碁で人間に勝つことは驚きか? / 道具の歴史とは? / 人間の比較優位な領域を自動化してビジネスになるのか? / 「良い技術」とは何か? / 技術で稼ぐとはどういうことか? / 顧客は何に金を払ってくれるのか? / 競争領域 vs 協調領域、十分条件技術 vs 必要条件技術 などが挙げられた。



\* 参考: 富山和彦氏著書の「AI 経営で会社は甦る」目次内容\*

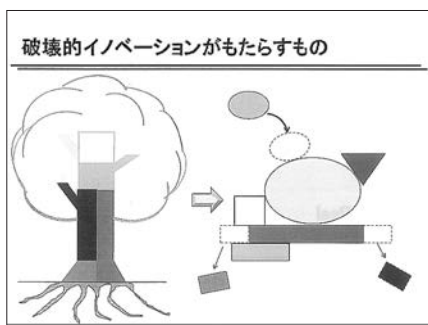
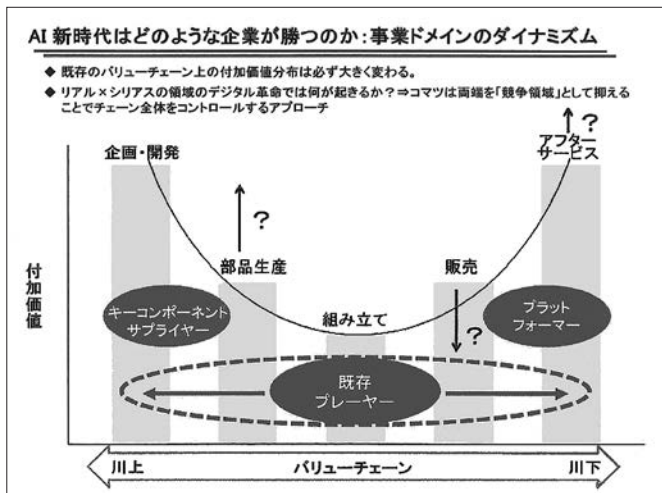
AI 革命の真相: デジタル革命が「バーチャルの世界」から「リアルの世界」へ / 「稼ぐ」構造が根こそぎ変わる / 産業革命の核心は AI の進化と「S (シリアス) の世界」 / 大自動化革命ではタブーの少ない日本に勝機あり / オープンイノベーションとブラックボックス化 / 日本の自動車メーカーは生き残れるか

なぜ日本企業が有利なのか: ハードとソフトの融合が焦点に / ハイブリッド経営システムを構築せよ / モノづくり日本にチャンスあり / ローカル型産業、中小企業にはもっと巨大なチャンス到来 / ターゲティング型の産業政策はもはや通用しない

日本企業がとるべき戦略: 天才技術者を雇うには / 一国二制度で異質なものと共存する / プロ経営者の改革がうまくいかない理由 / リアルキャピタルからヒューマンキャピタルへ / 産学連携で人を育てる

AI 時代のリーダー像・働き方: 分断される「G の世界」と「L の世界」 / 真のグローバル人材を目指すには / AI 時代に残る仕事、なくなる仕事

(文責: 広報出版委員会 委員長 塩原 孝夫)



メリットがある) があり、この場合、バリューチェーンの川上にはインテルが。また、川下にはアップルが存在しているという状況である。

## 失敗しない防音室の作り方



説明を行った小野口さん



日 時：令和元年 7 月 25 日(木)

16:30- 受付開始 17:00- 勉強会

場 所：環境スペース株式会社

〒150-0013 東京都渋谷区恵比寿3-28-12 ATY ビル

今回、JAVCOM メンバーが身近に扱っている「音」に関する勉強会を開催致しました。

主な項目は以下の通りです。

1. 音の基礎知識…音圧とは・周波数とは
2. 外へ漏れる音が問題にならないこと
3. 外部からの騒音や設備騒音が少なく静かなこと
4. 室内が響きすぎたり音質を損なう現象が生じないこと

そして当社（環境スペース株）のショールームについての説明をさせていただきました。



STEINWAY & SONSの超高級グランドピアノを設置

当社ショールームの環境はミニライブが可能な浮構造となっておりますが、天井高は 2,600mm と音楽ホール

としては天井高が厳しい環境です。

そのなかで音響障害を軽減し心地よい環境作りを行っていることについても説明をさせていただきました。

天井部の反射吸音体は上下のフラッターを抑え低音域をヘルムホルツの原理を応用し抑える設計を施していることなどの説明させていただきました。

セミナー後の懇親会でもご質問をくださりご関心をいただきました。

開催して頂いた技術委員会スタッフの皆さまとご参加頂きました皆様へ心より御礼申し上げます。

これからも技術を蓄積しながらお客様のご希望をお伺いし謙虚にご対応していく姿勢を今後も続けて参ります。

今後ともよろしくお願い申し上げます。

(広報出版委員 小野口 智也)

\*\*\*\*\*

当日は 25 名程度集まり小野口さんが講師を致しました。

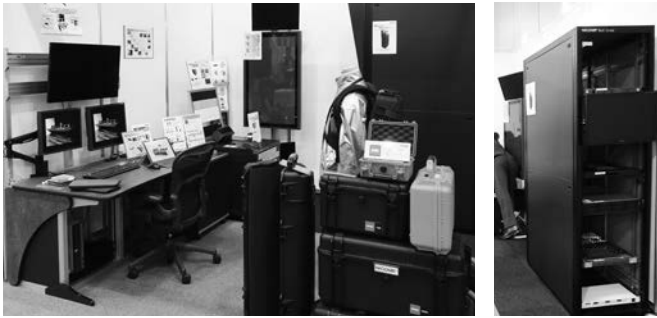
個人向け音響施設やMA 室の失敗しない作り方を話してくれまして、実際アナブースからの音の漏れドアの重要性や二重ドア、中部屋により音の漏れの違いを教えて頂き、皆さんわかりやすく勉強できたと絶賛しておりました。

二次会は環境スペースさん近くの恵比寿の居酒屋で20名程度で懇親しました。

(広報出版副委員長 金指 篤美)

## ニッキャビ

<http://www.niccabi.co.jp/information/news/KBEE2019.pdf>



関西放送機器展において、シンプルで低コストでありながら拡張性とデザイン性に優れたコンソールデスク「spaceRAIL」に「ウォールマウントフレーム」と「モニターアーム」を組み合わせた多面監視仕様として、より再現性高く展示紹介。(写真左上)

他に、cyberシリーズのデザインを踏襲し、コストパフォーマンスに優れたスタイリッシュでコンパクトな「cyber RACK」などの「cyber series」(写真右上)を中心に、優れた機能とイタリアならではのデザイン性を備えた樹脂ケース「HPRC レジンケース」、そして従来から映像・放送業界で多く採用されているブロードキャストラック「NEO Rack series」の奥行1000タイプや静音ラック「SRC series」などのラック製品を合わせて展示。

また、モニターを搭載することで、サイネージスタンドとしての活用ができ、さらに自転車・サーフボード・スノーボードなども取付可能なユニークなマルチスタンド「cyber STAND」も出展した。

## ビデオサービス

<https://www.videoservice.tv/>



東北映像フェスティバルのデジタルシネマソリューションブースは、元々カメラコーナーと別コーナーで展示をしていたが、「地方ではあまり目にする事のないデジタルシネマ機材に触れてみましょう」という事の始まりとして、同社が中心となってカメラ機材関連各社とともに共同出展を行った。



関西放送機器展と九州放送機器展においては、ソニーの6Kフルサイズ、ラージセンサーカメラ「CineAlta VENICE」の最新バージョンと、狭いスペースでも引き回しが可能な簡易レール、「Dana Dolly(ダナドリー)」を紹介。関西放送機器展では隣接した(株)アイ・ディー・エクスブースにおいて、好評の米・Backstage社のマグライナー各種と独・LOOK社のスモークマシンなども紹介した。



## アスク

<https://www.ask-corp.jp/news/2019/07/qbee-2019.html>



アスク メディア&エンタープライズ(ASK M&E)事業部は、九州放送機器展においてディストームブースと連携し多種多様な製品群を組み合わせたNDI対応ワークフローを紹介。業務用カメラ/オーディオ機器に対応し、マルチカム素材の編集作業を効率化させるソリューションなど、アスクの幅広い取り扱いメーカーの各製品で、ユーザーに最適なワークフローを提案した。

AJAの新製品では「Ki Pro Go」

(写真右)をはじめ12G-SDI対応製品を多数展示。さらにHDR対応製品やIP



対応製品など今後の映像制作に役立つ製品も展示した。

今回の目玉である「Ki Pro Go」は、4月に米国ラスベガスにて開催されたNAB Showで注目を集め、Product of the Yearアワードを受賞した製品。最大4チャンネルのH.264ファイルをUSBフラッシュメディアに同時収録可能な収録&再生デバイスである。

そのほか、Softron社のNDI対応インジェストシステム「Movie Recorder」、送出システム「OnTheAir」、SKAARHOJ社のプロビデオ業界向け外部コントローラー、BluetoothやRFを利用してワイヤレスにタイムコードを同期するTimecode Systems社のTC/SYNCデバイスなどの展示も行った。

## フォトロン

<https://www.photron.co.jp/news/20190717.html>



九州放送機器展においてAvid、EVS、Vizrtの最新映像制作システムを出展。「CM編集ワークフローと設備の今」をテーマに、CM等のコンテンツの企画・制作を行う太陽企画(株)をゲストに迎えてセミナーを開催した。

Avid製品では4K HDR対応ノンリニア編集システム「Media Composer」、ビデオI/Oインターフェイス「Artist|DNxIQ」のほか、共有ストレージ「NEXIS|E4」による4K HDR映像制作ワークフローを実機で紹介。また、高速インターネットを介してバーチャル編集環境を実現する「Media Composer|Cloud VM」を出展した。

<https://www.photron-digix.jp/product/avid.html>



EVS製品では《ライブ中継からネット配信までをカバーするEVSライブプロダクション》をキーワードに、4K/HDライブプロダクションサーバ「XT4K」と、収録映像を汎用ファイルフォーマットでバックアップ・転送・リストアする「XFile3」による中継制作ファイルベースワークフローを提案。マルチアングルのビデオ判定用プレビューシステムである「Xeebra」と併せ、スイッチング、スローリプレイ、テロップといった中継制作に必要な機能を搭載したワンマンプロダクション「X-ONE」を九州エリアに初出展。スタジアムビジョンから小規模のライブ中継、ネット配信まで幅広くカバーする。

<https://www.photron-digix.jp/product/evs.html>



さらに、世界中の放送局での使用実績を持つリアルタイムグラフィックス演出システム「Vizrt」と、TrackMen社のイメージベースカメラトラッキングシステム「VioTrack F coded floor」による、可搬性が高く手軽にAR演出をおこなう方法を九州で初めて紹介。また、スポーツ中継などで威力を発揮するVizポータブルリアルタイムCGシステムを出展した。



## テクノハウス



<https://www.technohouse.co.jp/event/5438/>

九州放送機器展ではオーディオと映像の2カ所のブースにて出展。以下の製品を紹介した。

AVIWEST 製品 (フランス) :  
PRO380/ モバイルエンコーダー / AIR320/ モバイルトランスミッター / STREAM HUB / 多目的トランシーバープラットフォーム



evertz 製品 (カナダ) :

SCORPION-4/ メディアプロセッシングプラットフォーム

Worldcastsystems 製品 (フランス) :

APT IP CODEC (ひかり電話対応IP 専用音声コーデック) / APT IP / ISDN CODEC (ISDN 対応音声コーデック)

DEVABroadcast 製品 (ブルガリア) :

DB3010 (FM リファレンスモニター) / DB-64FM (4 バンドオーディオプロセッサ) / Band Scanner2 (簡易モニター)

DHD.audio 製品 (ドイツ) : SX2  
バンドルセット (コンパクトデジタルミキサー)



Sonifex (イギリス) : RB-SD 11P (無音検知器) / DHY-03 (テレフォンハイブリッド) / AVN-CU2 (中継用簡易ミキサー) / AVN DIO シリーズ

## 三友



<https://www.mitomo.co.jp/news/qbee2019/>

九州放送機器展において下記の製品を出品した。

超小型放送用カメラ「Dream CHIP ATOM

one」: ATOM one は、3G-SDI / 12G-SDI 出力を備えた超小型の放送用カメラ。このカメラはソニーのIMXシリーズのイメージセンサーをベースにしており、優れた画像性能を提供する。

小型タイムコードジェネレーター「Tentacle SYNC E」: Tentacle Sync の後継機、「Sync E」は、Bluetooth を搭載した。タイムコードジェネレーターに新しい可能性をもたらす。

ビデオアシスト装置「OktoMag」: 撮影現場を支えるビデオアシストソリューション。

8K 対応光伝送装置「THUNDERS 4K 8K」: THUNDERS 4K 8K は、12G 光変換モジュールを搭載する事で、8K の回線と音声ラインやタリ、シリアル信号など映像中継に必要な様々な信号をカメラケーブル1本で伝送する事が可能。

モバイル中継装置「LiveU」: 中継・取材、ライブ・スポーツに最適な小型軽量の高画質モバイル中継装置。

VR カメラ「KANDAO Obsidian & Qoo Cam」: 全てを最小限に設計された金属のボディに6つの4Kセンサーを搭載したプロ向けVRカメラ、Obsidianと2D360VR、3D180VRが1台で撮影可能なQooCam。

機材ケース「PortaBrace」: 世界中の映画、TVクルーが認める機材ケースブランド「ポータブレイス」

ドイツ製折りたたみ式2段カート「クルーズカート」: ドイツ生まれの優れたもの、オフィスはもちろん、お店やイベント会場でも大活躍のフォールディングカート。そのほか共同出展したAJA製品では、マルチチャンネルH.264レコーダー & プレイヤー「Ki Pro GO」、4Kレコーダー「Ki Pro Ultra Plus」、H.264レコーディングとストリーミングを可能にするスタンドアロン型アプライアンス「HELO」、各種スタンドアロンコンバーター「Mini-Converters」などを展示した。

## 共信コミュニケーションズ



[https://www.kycom.co.jp/exhibition\\_2019/qbee2019.html](https://www.kycom.co.jp/exhibition_2019/qbee2019.html)

九州放送機器展において、AIを利用した動画文字解析コンテンツ管理システム「DaAlps」、編集作業におけるビデオ・オーディオのデータ共有～アーカイブにいたる一貫したシステムなどを展示した。出展内容は以下の通り。

### ■ DI ポストプロダクションシステム「SGO Mistika」

Mac/Windows 対応の新バージョンをリリース。NAB2019 でリリースされた最新のMistika Boutique を紹介。Boutique はハイエンドターンキーUltimaのMac/Windows版で、Ultimaの機能はそのままに、各OS上で動作が可能です。その他NABで発表された新製品Mistika Workows やMistika VRの最新版も合わせて展示した。

### ■ 動画文字解析 コンテンツ管理システム「DaAlps」

DaAlps は、さまざまな主に映像データを登録、管理、AI解析し、コンテンツをフルに活用するプラットフォーム。コンテンツの管理からアーカイブ、プレイアウト、サイネージまでシンプルかつ直感的に操作が可能。AIを利用した動画文字解析、自動Tag付け機能を有したコンテンツ管理システムを紹介した。

■ 4K/HD(HDR) 対応ローコスト編集システム/ トータルワークフロー ノンリニア編集システム並びにPro Tools MA システムを紹介。Avid NEXIS | PRO の共有ストレージにおいてはMedia Composer/ PremierePro/ FCP/ EDIUS が共有編集可能となり、効率よい編集環境の構築が可能となる。

## Blackmagicdesign

<https://www.blackmagicdesign.com/jp/>



九州放送機器展においてNAB Show 2019にて発表した8K対応のDaVinci Resolve 16 & Editor Keyboard、ATEM Constellation 8K、HyperDeck Extreme 8K HDRなどの新製品を紹介。製品はいずれも多様な機能を取り揃えており、映像技術の最先端テクノロジーを搭載している。新たに追加されたことで驚異的なスピードで映像編集を進められるようになるCutページなど、100項目以上の新機能が加えられたDaVinci Resolve 16のデモンストラーションを交えて紹介した。



ATEM Constellation 8K



DaVinci Resolve16 & Editor Keyboard



九州放送機器展セミナー内容▶

[http://www.q-kikiten.com/seminar/2019/se\\_1729.html](http://www.q-kikiten.com/seminar/2019/se_1729.html)

## リーダー電子

ZEN シリーズ2K/4K/IP/4 入力波形モニター「LV5600」を中心としたラインナップにて出展した

■波形モニター「LV5600」:4K/HD/SD-SDI 信号および4K/HD/SD のIP 信号に対応したハイブリッドタイプの波形モニターで、新機能オプションとして25G 4K-IP とノイズメーターを用意した。多彩な信号入力に対応しており、SD-SDI,HD-SDI,3G-SDI,12G-SDI シングルリンク、3G-SDI デュアルリンク / クワッドリンク、HD-SDI クワッドリンク、IP (ビデオオーバーIP) 対応。

25Gb/s 4K-IP 入力にも対応 / タッチパネル機能搭載の7 インチフルHD パネルを採用した優れた操作性 / SD-SDI から12G-SDI までSDI 信号の物理層測定であるアイパターン表示、ジッター表示が可能 / 入力信号のビデオ

信号波形、ベクトル波形、ピクチャーなど様々なアイテムをお好みのサイズで自由な位置にレイアウトが可能 / SDI 信号発生をHD-SDI から12G-SDI まで対応 / IP テストパターン信号発生機能 / IP 伝送規格 (SMPTE ST 2110-20/30/31/40) に対応し、HD、4K (3840 x 2160) のテストパターンを発生 / HDR 信号のレベル監視やOOTF を考慮したディスプレイにおける想定輝度(cd/m2) でのレベル管理が可能 / ビデオノイズメーターは入力されたSDI 信号の輝度信号、またはRGB 信号に含まれるビデオノイズを測定 / フォーカスアシスト機能は非線形超解像技術を応用した新しいフォーカス検出アルゴリズムを開発し、従来、検出の難しかった低コントラストの映像でも、感度良くフォーカスを検出可能

■2K/4K/IP/4 入力ラスタライザー「LV7600」:SDI & IP ハイブリッド、波形 / ベクトル / ピクチャー / オーディオ / アナライズ / ジェネレーター機能 / 簡易字幕機能、1U フルラックサイズ

■2K/4K/2 入力波形モニター「LV5300/LV5350」:LV5300 EYE 付き・LV5350 EYE 無し、波形 / ベクトル / ピクチャー / オー



ディオ / アナライズ / ジェネレーター機能 / 簡易字幕機能、液晶サイズ:7 インチ、3U ハーフラックサイズ、電源:DC10V ~ DC18V

■2K/4K/2 入力ラスタライザー「LV7300」:波形 / ベクトル / ピクチャー / オーディオ / アナライズ / ジェネレーター機能 / 簡易字幕機能、1U ハーフサイズ、電源:DC10V ~ DC18V

■ジェネレーター「LT 4611」:アナログブラック同期信号出力、ゲンロック機能、2重化電源

■チェンジオーバー「LT 4448」:入出力 BNC11 組、LTC のチャンネル、対応信号:SDI 信号、NTSC / PAL ブラックバースト信号、HD 3 値同期信号、AES/EBU デジタルオーディオ信号、ワードクロック信号、LTC 信号・2重化電源・異常アラーム (対応機種:LT 4600A,LT 4610,LT 4611)

<https://www.leader.co.jp/event/>



## ソニー

カメラステージ前とブースの双方において出品。本年4月の「NAB Show 2019」に出展した映像制作機器や、AI/IP/クラウドを活用した新たな映像ソリューションなど多岐にわたる新材を展示した。また、KBC九州朝日放送協力のもと、九州放送機器展の会場とKBCスタジオをネットワークで接続してIP Liveプロダクションシステムによるリモートプロダクションのデモンストレーションを実施した。カメラスタジオではマルチフォーマットポータブルカメラ「HDC-5500」やマルチパーパスカメラ「HDC-P50」などを展示。

UHB 伝送により、高画質な4K 信号の伝送と出力を実現するマルチフォーマットポータブルカメラ「HDC-5500」は、ウルトラハイビットレート (UHB) 伝送に対応し、12G-SDI によるカメラ本体からの4K 信号出力が可能なるマルチフォーマットポータブルカメラ。グローバルシャッター機能付き2/3 型3 板式4K イメージセンサーを搭載し、歪みのない高速撮影を実現する。

また本機は同時発売のカメラコントロールユニット「HDCU-5500」と組み合わせることで、2 系統の4K 信号を双方向で同時に送受信できるUHB 伝送を実現する。

一方「HDC-P50」は小型、軽量のコンパクトな筐体で、12G-SDI 端子から4K 信号を出力することが可能。カメラマンが入れない狭い場所、サッカーのゴール周りや、クレーンに設置し

て高所から撮影するなど多様なアングルにて撮影することができ、スポーツの決定的瞬間を高画質に捉える。グローバルシャッター機能搭載、新開発の2/3 型3 板式4K イメージセンサーにより、ローリングシャッター歪みやフラッシュバンドのない正確な映像表現が可能である。

<https://www.sony.co.jp/SonyInfo/News/Press/201904/19-031/index.html>

そのほかブースでは、小規模ライブシステム「BRC-X400」、プロオーディオ「新UWP-D」シリーズ、Media Backbone 報道ソリューション、アーカイブ「オプティカルディスク・アーカイブ第2 世代、アーカイブメディ



ア」、カムコーダーハンズオン「PXW-Z280 / Z190」、モニター「BVM-HX310・LMD-A シリーズHDR 対応」、メディア「SxS PRO+・SxS Pro X・ポータブルストレージ」、スマホ用インカムアプリ「Callsign」、シンプル生中継クラウドソリューション「Virtual Production」、クラウド型 勤怠管理システム「AKASHI」、SNS リアルタイム速報サービス「Spectee」、AI アナウンサー 荒木ゆい、「Crystal LED」ディスプレイシステムなどを出展した。

<https://www.sony.jp/professional/event/info/pb20190731.html>



## 伊藤忠ケーブルシステム



多岐にわたる製品群の中から、4K 対応ノンリニア編集システム/共有ストレージ、4K 対応番組自動送出システム、モバイル中継システム/オンエア映像/送り返しシステムなどを紹介。4K 編集システムでは新製品の Avid [Media Composer]、編集共有ストレージでは Avid [NEXIS シリーズ]、ODA/LTO/クラウド対応ファイルアーカイバ [XenData]、KVM/統合監視システム IHSE [Draco シリーズ]、低遅延 IP 映像伝送装置 Haivision [MakitoX]、4K 対応番組自動送出機 Video Tech [VATIC]、モバイル中継システム [Smart-telecaster Zao-S]、オンエア映像・送り返しシステム テクノマセマティカル [低遅延・小型映像伝送装置]、AWS の配信用エンコーダとライブ/VoD 配信ワークフロー、その他 4K マスターモニター ソニー [BVM-HX310]、4K 対応カムコーダー ソニー [PXW-Z280]、ODA ドライブ [ODS-D280 U]、Flowtech 三脚 [Vinten Vision Blue] などをブースにて出品したほか、併設展示ではクロスイメージング社ブースにて気象・防災情報および作画・送出システムを紹介した。

### ■ KVM 統合監視システム

IHSE 社 [Draco Tera Enterprise 480 シリーズ] は従来のシステムとは一線を画す、新しい KVM システム。

最大576ポートから48ポートまで可能な4種類のシャーシーに8ポート単位のモジュールを自由に構成できるHD-KVMスイッチで、切替時のタイムラグのないインスタントスイッチや、ポートのマトリックスを自由に設定できるフレックスポートなどのユニークな機能を備え、冗長化電源も装備。各エクステンダーは接続されると自動で認識され、煩わしい事前のIPアドレス設定作業などは不要。

同一シャーシーに3G/HD/SD-SDIのマトリックスも混在可能で、プロフェッショナル映像のファシリティに最適。モジュールはCATx、ファイバー、COAX (3G/HD-SDI用) から選択でき、マルチモードファイバーで最大1000m、シングルモードファイバーで最大10Kmの長距離延長も可能な製品である。

一方の「Draco Compact 477 シリーズ」は、コンパクトなボディでもフルHDをサポートするスペースファクターとコストパフォーマンスに優れたKVMエクステンダー。

Draco Tera KVM スイッチ経由で利用することはもちろん、CPUユニットとKVMコンソールユニットのペアで単独のKVMエクステンダーとしても利用可能である。

[https://www.itochu-cable.co.jp/products/IHSE/item\\_4034](https://www.itochu-cable.co.jp/products/IHSE/item_4034)



<https://www.itochu-cable.co.jp/>



### ■テクノマセマティカル 低遅延・小型映像伝送装置

現場の状況をリアルタイムに共有したいというニーズに応え、フルHDの大画面・高画質のカメラ映像を、僅か0.1秒の遅延で伝送する『低遅延・小型映像伝送装置』で、画サイズ・画質・遅延・伝送レート・コスト・消費電力・重量などの課題をすべて同時解決した、これまでの常識を一気に覆した伝送装置。

各装置の重量は1.3kgで、カメラ・バッテリーと合わせても、15インチのノートパソコン並みの軽さ/低ビットレートで伝送できるので、一般のインターネット回線を使用してもストレスを感じずに使用できる。

[http://www.tmath.co.jp/products/system/Low\\_latency\\_and\\_Compact\\_Video\\_Transmission\\_System.html](http://www.tmath.co.jp/products/system/Low_latency_and_Compact_Video_Transmission_System.html)



## 池上通信機

カメラステージ前とブースの双方において出品。カメラステージ前では4Kカメラとモニターを中心に紹介。また、スイッチャーやFPUなどはブースにて紹介した。

■《NEW》2/3型4K CMOS3板式4Kカメラシステム [UHK-430] (CCU-430 オプションモジュール MoIP\_GW): ネイティブ4K 2/3型CMOSセンサー3板式とB4レンズマウントを搭載した4K/HDポータブルカメラシステム [UHK-430] は、次世代カメラシリーズ "UNICAM XE" の最初のラインアップとして誕生した。カメラヘッドとCCU間の4K非圧縮信号が伝送可能な [UHK-430] は、妥協なき技術の追求により誕生した Ikegami のフラッグシップカメラ。



<https://www.ikegami.co.jp/archives/menu1/uhk430>



■《NEW》4K/HDマルチパーパスカメラ [UHL-43]: 4K/HDマルチパーパスカメラ Ikegami の放送用4Kシステムカメラのフラッグシップモデルである UNICAM XE

(UHK-435 / UHK-430) と同じ2/3型ネイティブ4Kセンサーを搭載し、4Kならではの高品質な映像表現が可能な4K/HDマルチパーパスカメラ。4K対応の12G-SDI出力のほか、HD/3G-SDI出力も標準装備。将来の4Kシステム構築を見据えながらもHDでの実運用もサポートする。ワンピースタイプのコンパクト設計のため、様々なアングルから被写体を捉えるパンチルトシステム搭載カメラ、情報カメラなどの用途に最適。



UHL-43

<https://www.ikegami.co.jp/archives/menu1/uhl-43>



■4K12G-SDIマルチプラットフォームスイッチャー [MuPS-5000 Series]: 次世代4K放送システム対応制作スイッチャーであり、4K/2K両信号が共存できる豊富な入出力系統、内部機能単位のフォーマット指定と連動指定 (サイマルキャスト)、豊富なキーイング (USK/DSK) と全列に備わったりサイズで運用をサポート。また、4K 4M/E、2K 8M/E を実現、多彩な映像表現を可能とした機能、大型の操作卓は白を基調にした液晶表示、各操作ブ



ロック毎に分離可能なモジュール構造、操作段ごとに傾斜角を備え表示器の視認性を改善、クロスポイントボタン数は24、32、40の3バリエーション 15mm角 18mmピッチの押しボタン配列、12型タッチディスプレイなどの機能上の特徴を持っている。

<https://www.ikegami.co.jp/archives/menu3/mups-5000-series>



■その他: スイッチャー [OnePack II Series] / 4K/HDマルチフォーマットLCDマスターモニター [HQLM-3125X] / 4K/HDマルチフォーマットLCDモニター [HQLM-3120W] [HQLM-1720WR] / マルチフォーマットLCDカラーモニター [HLM-60 Series] / 4K・IP伝送対応デュアルモード・デジタルFPU装置 [PF-900] / QAM、OFDM両方式対応7GHz帯超小型FPU送信装置 [PP-97送信機] / 1.2/2.3GHz帯超小型FPU送信装置 [PP-90送信機] [PP-90受信機] / 《NEW》ビデオ編集ソフトウェア Avid [Media Composer]

## ローランド

九州放送機器展において、6月より発売を開始した4K HDR対応スイッチャー「V-600UHD」をはじめ、ミキシング・コンソール O・H・R・C・A「M-5000C」、9月発売のマルチフォーマット AV ミキサー「VR-50HD MK II」などを展示。

ビデオ製品ではライブ配信向けスイッチャーなどを多数展示した。また、オーディオ製品ではレゾネッツ・エアフォルク社との協業による広域ネットワーク音声伝送システム「EtherREAC40」を参考展示した。

そのほかオーディオ製品では、オールインワン・コンソール V-Mixer「M-200i」／アストンマイクフォロン「Stealth/Origin/Spirit」など。

ビデオ製品では4K HDR マルチフォーマット・ビデオ・スイッチャー「V-600UHD」、マルチフォーマット・AV ミキサー「V-60HD」「V-02HD」「VR-1HD」などを出品した。



■ M-5000C : コンパクトボディながら、M-5000と同じ機能を搭載している。高音質を支える96kHzのサンプリング・レートをはじめ、72bitのサミング・バスや、一から見直したアナログディスクリット回路、電源二重化への対応、さらには本体のアナログ入出力16in/8outに加え、REACをはじめ、Dante、MADI、SoundGrid、SDI、SFP、DVIへの対応を可能にしたエキスパンションインターフェイスも2枚搭載可能など、「O・H・R・C・A」の革新的な基本性能をそのままにコンパクト化を実現。中継をはじめとするさまざまな現場で、高度な機能性を発揮する。

<https://proav.roland.com/jp/products/m-5000c/>



◀ M-5000C  
VR-50HD MK II ▲

■ マルチフォーマット・AV ミキサー VR-50HD MK II : ライブ配信、イベント、企業や学校内のスタジオなど多くのシーンで使われているオールイン・ワン AV ミキサー「VR-50HD」の進化版。

1人で簡単に操作ができるコンセプトはそのままに、操作性を更に向上させたビデオ・スイッチャー、音質と機能を全面的にブラッシュ・アップしたオーディオ・ミキサー、好評のタッチパネル・モニター、パソコンと簡単に接続ができるUSB3.0ストリーミング出力を備え、映像・音声コンテンツ制作に幅広い活用が可能である。



[https://proav.roland.com/jp/products/vr-50hd\\_mk\\_ii/](https://proav.roland.com/jp/products/vr-50hd_mk_ii/)

## グラスバレー

6月に8Kノンリニアビデオ編集ターンキー「HDWS 8K」新シリーズを発表／発売した同社では、関西放送機器展においてノンリニア編集ワークステーション「HDWS 4K3 Elite」をはじめ、自社開発3CMOSセンサーを搭載しHDR/WCGにも対応した4Kシステムカメラ「LDX 86N w/Direct IP」、4K/HDクロスコンバーター「Kudos Pro UHDシリーズ」、クロスコンバータ「UHD-1000」などを紹介し、8K・4Kエディティングの普及を強力に支援する製品を中心とした製品群のデモを行った。

■ 8Kノンリニアビデオ編集ターンキー「HDWS 8K Express」: 快適な4K映像編集で定評のあるHDWS 4Kシリーズのハードウェアに8K編集・8Kファイルエクスポート機能を持つEDIUS Workgroup 9の特別ライセンスを搭載したターンキーシステム。EDIUS Workgroup 9の新機能によって実現するビデオアウトコンバージョン機能により8K編集映像を4Kモニターでプレビューすることが可能となり、8K映像編集環境の構築時に初期コストを抑えながら導入することができる。

さらに、HDWS 8K Expressの上位機種としてHDWS 8K Eliteの発売を予定している。HDWS 8K EliteはSDI出力を装備し、8K編集映像を8Kのネイティブ解像度のまま8Kモニターでプレビューすることが可能となる。また、ビデオアウトコンバージョン機能は、従

来のHDWS 4Kシリーズ、REXCEEDシリーズにも搭載予定で、4K編集映像をHDモニターでプレビューすることにより、既存のHD編集環境で快適な4K編集が行えるようになるため、追加投資負担を抑えることが可能になる。

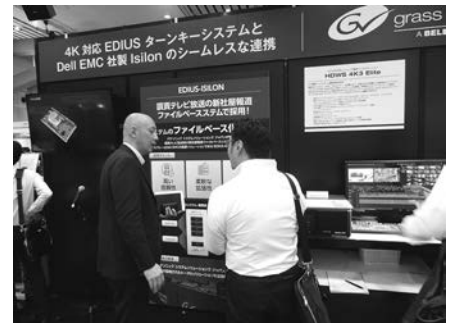
これらのソリューションにより、放送局をはじめとするあらゆる映像制作現場で加速する8K・4Kエディティングの普及を強力に支援していく。

<https://www.grassvalley.jp/pdt-item/hdws-8k-express/>



■ 4K/HDR対応ノンリニア編集ワークステーション「HDWS 4K3 Elite」: Grass Valleyが誇る4K対応EDIUSターンキーシステムの最新シリーズです。最高スペックの性能を追求したフラグシップモデル「HDWS 4K3 Elite」と、幅広い4K編集の要求に応えるメインストリームモデル「HDWS 4K3」がラインナップされています。4K/60p Quad-SDI出力に対応したプレビューインターフェイス、業務用ノンリニア編集ソフトウェア「EDIUS Workgroup 9」との組み合わせにより、快適な4K編集環境を実現することができます。

ネイティブ4K編集を可能にする最高水準のワークステーションとして、最新世代のデュアル構成 Xeon プロセッサ、大容量メモリを搭載した、最高水準のワークステーションに、4K/60p Quad-SDIに対応したプレビューイ



ンターフェイスを搭載している。

OSはWindows 10を採用。SMB3.11に対応し、Dell EMC社製ISILONとのスムーズな接続を実現している。また新たにThunderbolt-3を搭載し外部デバイスとのファイル交換もより高速になっている。

<https://www.grassvalley.jp/pdt-item/hdws-4k3-elite/>



■ LDX 86<sup>N</sup> w/Direct IP : 自社開発3CMOSセンサーを搭載しHDR/WCGにも対応した「LDX 86N w/Direct IP」を、4KシステムカメラをDirect IP構成にして、カメラステージにてデモを行った。

ヘッドーBS間をIP接続し、リモートプロダクション時にも通常と同様の運用ができる。



<http://www.tv-osaka.co.jp/kbe/camerastage.html>

# 朋 栄

スタジオサブ関連製品やSDI/IP 統合制御環境、字幕制作対応製品、簡易中継ソリューションなど、最新製品/ソリューションを展示した。主な出展製品は以下の通り。

## 1. スタジオサブコーナー

■ 4K 対応ビデオスイッチャー「HV S-2000」：ライブイベントから、中継車、スタジオサブまでさまざまなシーンで活用できる24入力18出力のビデオスイッチャー。最大48入力18出力または40入力22出力まで拡張可能。各M/EにキーヤーとFLEXaKEY™をそれぞれ4つ搭載し、多彩な演出に対応。最大12入力の4Kスイッチャーとしても活用可能。キューシートによる素材管理により、進行順リストに従った送出運用が可能なワンタッチコントローラー「OTC-1000」も出展。(協力：(株)リバアフィールド)

<https://www.for-a.co.jp/products/hvs2000/?mail190723>



■ マルチチャンネルビデオサーバー「MBP-1000VS」シリーズ：4KにXAVC™、HDにMPEG-2をハードウェアコーデックとして搭載したマルチチャンネルビデオサーバー。HD対応モデル、4K対応モデル、12G-SDI対応モデル、IP対応モデルをラインアップし、インジェストやプレイアウトなど幅広い用途で使用可能。グラフィックス送出対応モデルでは、2系統のテロップ送出にも対応し、動画のプレイアウトに合わせてテロップ素材を送出したり、動画とテロップの合成出力が可能。

■ 12G-SDI対応キャラクタージェネレーター「VWS-1000」シリーズ：テロップ送出機能、動画送出機能、ミキサー機能を搭載したキャラクタージェネレーター。4K1系統のPGM V/K、PREV Vの送出、V/Kの静止画キャプチャーに対応。HD送出にも対応し、2系統のPGM V/K、PREV V/Kの送出、V/Kの静止画キャプチャーが可能。IP入出力対応モデルもラインアップ。

## 2. HDR/SDR サイマル送出コーナー

■ マルチパスシグナルプロセッサ「FA-9600」：12G-SDI対応シグナルプロセッサ。標準でHD 2系統のフレームシンクロナイザー、オプションで4K 1系統への対応をはじめ、HDR/WCGの各種変換、アップ/ダウン/クロスコンバーター、12G/3G



12GSDI HDR WCG

マルチパスシグナルプロセッサ「FA-9600」

変換、2SI/SQD変換など、各種機能を搭載可能。新バージョンでは、オプションで3D-LUTモードの追加、SR Live for HDRワークフローに対応。

<https://www.for-a.co.jp/products/fa9600/?mail190723>

## 3. SDI/IP 統合環境

■ SDI/IP統合制御ソフトウェア「SOM-100」：SDI(ベースバンド)映像機器とIP映像機器の混在する環境で、各種映像機器を統合的に制御・監視するためのオーケストレーションソフトウェア。SMPTE ST 2022-6およびST 2110に対応するIP対応ビデオサーバーMBP-1000VS-IP、TICOコーデックを活用することで3Gbps帯域で4K映像の伝送を可能にするモジュール製品USF-106TICO-12G、朋栄エレテックス製IP対応信号発生機ESG-4200なども紹介。

## 4. パーチャルシステムコーナー

■ パーチャルスタジオ/リアルタイムCGシステム「VRCAM-NX」：パーチャルスタジオ運用とリアルタイムCG(RCG)運用の両方を実現。パーチャル運用では4K対応ソフトウェアクロマキーを利用可能にし、レイヤー機能も新搭載。シーンの組み立てや、カメラの動きに連動するCGと非連動のCGを直感的に切り分け可能。

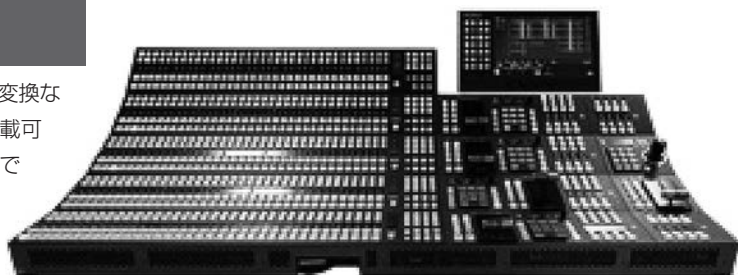
<https://www.for-a.co.jp/products/som100/?mail190723>



■ リアルタイムカメラトラッキングシステム「StarTracker」：天井や床にマーカーを貼るだけで、精度の高いフリーハンドカメラトラッキングを実現。一度設定すれば、電源オフ後も再設定することなく運用が可能。センサーユニットと共に、リアルタイム・ポジション・データを算出する小型プロセッサを搭載。(英国 Mo-Sys Engineering 社)

## 5. 字幕制作コーナー(朋栄IBE製品)

■ 8K/4K対応字幕アシストサービス NeON-CA：音声認識を活用し、映像ファイルの音声から文字情報を自動生成するクラウドサービス。テキストエディタ感覚の「字幕エディタ」を搭載しており、ページ構成/文字/位置/タイミングを編集可能。字幕ページ情報をARIBファイルに出力することにより、NeON-IXやNeON-SHVで送出用ARIBファイルを作成可能。



4K 対応ビデオスイッチャー「HVS-2000」



SDI/IP 統合制御ソフトウェア「SOM-100」

■ 字幕ソフトウェア ICCW-100/TRS-55/IMP-210/ICCU-100：MXFファイルに字幕情報を重畳できるICCW-100、字幕確認用プロキシファイルを手軽に生成できるTRS-55、PC上で字幕付きMXFファイルを手軽に再生可能なIMP-210、重畳された字幕データを分離し、再編集を可能にするICCU-100の各ソフトウェアを紹介。

<http://www.ibe.for-a.co.jp/product/maker/index.html>



## 6. 簡易中継コーナー(カナダDejero社 輸入取扱製品)

■ H.265/HEVC対応簡易中継装置 Dejero EnGo/PathWay：ビデオ映像をH.265/HEVCでエンコードし、6つの携帯回線をブレンディングし、ネットワークを広帯域化して伝送する簡易中継装置。ショルダー型ビデオカメラのバッテリー部に取り付け可能なEnGo、ラックマウント型のPathWay。ニュース取材、スポーツ報道、ライブイベントなど、遠隔地の取材映像/イベント映像を放送するのに理想的なソリューション。(カナダ Dejero 社)

■ モバイルネットワークルーター Dejero GateWay Router：携帯回線やWi-Fiなど複数回線をブレンディングし、高速インターネット環境を構築可能なモバイルルーター。現場で作業するクルーがニュースルームやメディア資産管理システムにアクセスしたり、大容量のファイル送受信、クラウドサービスへのアクセス、さらにはVoIP経由での同僚との通信など、インターネットワークフローを必要とするさまざまなアプリケーションを提供する。(カナダ Dejero 社)

<https://www.for-a.co.jp/import/import/dejero.html>



## 第265回運営会議

日 時:令和元年7月24日(水)  
18:00~19:00

場 所:麴町区民館 洋室C

出席者:19名

### 議 題

#### 1. 会員動向(梶事務局長)

入会申込 正会員(個人) 梅田 智史  
東栄広告(紹介=寺林)  
正担当変更 ㈱テクノハウス 榎本 隆二  
(代表取締役社長)

#### 2. 協会催事進捗報告(各担当責任者)

- (1)第155回特別セミナー報告(梶事務局長)  
日 時:令和元年7月9日(火)  
15:30~16:50  
場 所:富士フィルム 西麻布ホール  
参加者:86名(有料参加者 76名)
- (2)第156回有料セミナー 10月18日(金)  
進捗状況(新井技術研究委員長)
- (3)InterBEE2019出展準備状況  
(金指実行委員長)
- (4)JAVCOM忘年の集い 準備  
(森澤常任幹事長)

#### 3. 各委員会報告

##### ■広報出版委員会(金指副委員長)

- ◇活動報告
- (1)JAVCOM NEWS 134 7月24日発行  
記事内容は以下のとおり
- ①NPO法人JAVCOM 第15回通常総会
  - ②NPO法人JAVCOM主催 第155回セミナー「AIでどう変わる企業経営は」～AI活用がもたらす未来の経営～
  - ③JAVCOM 運営会議だより
  - ④裏表紙 カラー写真掲載
- (2) InterBEE 2019 JAVCOMブース打合せ
- ①第1回目 6月27日(木曜日)18:00~  
場 所 共信コミュニケーションズ㈱  
赤坂テクニカルセンター  
出席者 8名
  - ②第2回目 7月19日(金曜日)18:00~  
場 所 共信コミュニケーションズ㈱  
赤坂テクニカルセンター  
出席者 9名
- 打合内容
- ① InterBEE2019 出展打合せ  
・ブース来場者130名を目標とし、JAVCOMの活動を分かりやすく展示紹介する。  
・映像媒体は、1分程度に簡素化し、何をしているかわかる映像を用意する。  
・バーコードリーダーを用意する。
  - ② 会員展示ブースにJAVCOMの案内を設置依頼  
・場所をとるサイズや枚数が多いと敬遠されがちの為、B-5程度簡素な説明にQRコード明記して興味あるお客に検索してもらう。
  - ③ノベルティーについて

- ・ノベルティーは、会員より品物を供給できるかを確認。(表にQRコードを貼る)
- (3)JAVCOM ホームページの改善について
- ・田村氏が中心となって日本電子Webデザイン科に連絡
  - ・来年の2月を目処にリニューアルの予定

##### ■ニュービジネス研究委員会(関野委員長)

- ◇活動報告
- (1)7月勉強会 ARスポーツHADO見学会  
日 時:令和元年7月17日(水)16:00~  
場 所:meleapオフィス  
内 容:ウェアラブルデバイスとARを用いた対戦型テクノスポーツ「HADO」の体験・説明会  
参加者:24名(懇親会:18名+Meleap本木様)
- ◇活動予定
- (1)第80回ニュービジネス委員会定例会  
日 時:令和元年8月27日(火)19:00~  
場 所:東洋レコーディング㈱ 3F会議室  
議 題:10月勉強会(予定)についての内容確認など、3月セミナーのテーマ選出、スケジュール調整など  
ニュービジネス委員会メンバー会社・製品紹介プレゼンテーション実施

##### ■技術研究委員会(新井委員長)

- ◇活動報告
- (1)有料セミナー会議  
日 時:2019年7月8日(月)16:00-17:00  
場 所:三友㈱  
内 容:有料セミナー講師交渉進捗報告及び、追加題材案等  
出席者:6名
- ◇活動予定
- (1)第235回定例会 7月度勉強会  
日 時:2019年7月25日(木) 17:00-18:15  
場 所:環境スペース㈱  
内 容:新設デモルームの紹介

- (2)第236回定例会 8月度人こよみ語り  
日 時:2019年8月22日(木) 時間未定  
場 所:㈱フォトロン  
語り手:榎引則彦氏

##### ■ソフト制作研究委員会(吉田委員長)

- ◇活動報告
- (1)「モーションキャプチャースタジオ勉強会」打合せ  
日 時:2019年7月2日(火)  
場 所:株式会社ダイナミックチャーズ訪問  
出席者:村松、吉田、佐藤  
※9月後半もしくは、10月中にて現在調整中。
- (2)InterBEE2019JAVCOMブース出展打合せ
- ①日 時:2019年6月27日(木)
  - ②日 時:2019年7月19日(金)
- ◇活動予定
- (1)8月度勉強会  
日 時:2019年8月19日(月)  
内 容:テアトル・エコー公演「バグ・ポリス」観劇

#### 4. 第193回常任幹事会報告(森澤常任幹事長)

- 日 時:令和1年7月24日  
16時30分~17時30分  
場 所:麴町区民館 洋室C  
議 題:
- (1)協会催事
- ① 第155回 特別有料セミナー結果報告
  - ② 第156回 有料セミナー進捗状況
  - ③ InterBEE2019出展準備状況
  - ④ JAVCOM忘年の集い 準備
- (2)各委員会報告
- (3)6月度収支報告
- (4)その他 事務局報告  
次 回 第194回常任幹事会  
日 時:令和1年8月21日(水)  
16時30分~17時30分  
場 所:麴町区民館 洋室B

## お詫びと訂正

7月15日に発行致しましたJAVCOM NEWS 134号 P.1左段10行目からの第15回通常総会掲載内容のうち、下線箇所の記載氏名が間違っておりました。

「事務局長による会員動向の報告にはじまり、各委員長による平成30年度の事業報告および事務局長による令和元年度の収支計算、森澤監事(正しくは尾崎監事)による監査報告、各委員長による令和元年度の事業計画案、事務局長による令和元年度の収支予算案など、6号までの議案の採決がとどこおりなく進められ、17時45分、予定どおり総会は閉会した。」

また当号におきまして、一部に印刷時の印字ブレやカスレがありましたことも併せまして、関係者の皆様にご迷惑をお掛け致しました事をお詫び申し上げます。

広報出版委員会 委員長 塩原 孝夫

5. その他(梶事務局長・寺林運営委員長)

- (1)事務局
  - ①東京都書類届NPO法人事業報告書等(6/27)
  - ②155セミ講師・後援団体礼状&欠席者セミ資料送付(7/12)
- (2)運営会議提起事項
  - ①HPのWordPress進捗状況報告
  - ②法人代表者データ収集進捗状況報告  
61%回収率(7/23現在)

次回常任幹事会

8月21日(水)16:30～ 麹町区民館 洋室B  
9月24日(火)16:30～ 麹町区民館 洋室C 予定

次回運営会議

8月21日(水)18:00～ 麹町区民館 洋室B  
9月24日(火)18:00～ 麹町区民館 洋室C 予定

\*\*\*\*\*

■■■■第266回運営会議■■■■

日 時:令和元年8月21日(水)  
18:00～19:00  
場 所:麹町区民館 洋室B  
出席者:23名

議 題

- 1. 会員動向(梶事務局長)
  - 入会申込 正会員(個人) 櫛引 則彦  
副担当変更  
(株)東京サウンド・プロダクション  
長岡茂樹⇒掛田憲吾
- 2. 協会催事進捗報告(各担当責任者)
  - (1)第156回有料セミナー進捗状況  
(新井技術研究委員長)
  - (2)InterBEE2019出展準備状況  
(金指プロジェクトリーダー)
  - (3)JAVCOM忘年の集い&新春セミナー  
準備状況&総会準備状況
- 3. 各委員会報告
  - 広報出版委員会(塩原委員長)
    - ◇活動報告
    - (1)JAVCOM NEWS関係  
JAVCOM NEWS134 7月25日発行  
内容の一部に間違いがあり(「年度の収支計算」の内容で、尾崎氏と森澤氏の氏名の入れ間違い)次号135号にてお詫び訂正文を入れる。  
また、一部に印刷時の印字ブレやカスレがあり併せてお詫び文を入れる。
    - (2)InterBEE 2019 関係  
第2回InterBEE 2019 JAVCOMブース  
打合せ  
日 時:7月19日(金曜日)18:00～  
場 所:共信コミュニケーションズ(株)  
赤坂テクニカルセンター  
出席者:大竹理事長他9名

議 題:

- ①InterBEE 展示用LEDパネルの件で銀座サクラヤ信田氏に訪問、協力依頼(7/30)
  - ②会員展示ブースにブローシャ及び入会案内を置いてもらう件について東放学園山本氏に次回迄に考えてもらう
  - ③ノベルティーは、ピーム様より提供承諾、今後イメージを伝える。(表にQRコードを貼る)
  - ④InterBEE ツアー企画  
会員学校である生徒さん向けに会員ブースでの説明ツアーを行う
  - ⑤次回の日程  
8月20日(火)共信コミュニケーションズ  
赤坂 18:00～
- (2)JAVCOM ホームページの改善について  
田村・村松氏が中心となって逐次メール等にてメンバーと連絡を取る。  
日本電子専門学校 関根様、小山内様を通じてWebデザイン科と連絡しリニューアルの予定

■ニュービジネス研究委員会(橋本副委員長)

- ◇活動報告
- (1)ニュービジネス研究委員会主催ゴルフコンペ/第13回NBC Cup  
日 時:令和1年8月3日(土)  
場 所:米原ゴルフ倶楽部  
参加者:26名
- ◇活動予定
- (1)第80回ニュービジネス委員会定例会  
日 時:令和1年8月27日(火) 19:00～  
場 所:東洋レコーディング(株)3F会議室  
議 題:  
①10月勉強会(予定)についての内容確認など  
②3月セミナーのテーマ選出、スケジュール調整など  
③ニュービジネス委員会メンバー社会社・製品紹介プレゼンテーション実施

■技術研究委員会 (新井委員長)

- ◇活動報告
- (1)有料セミナー会議  
日 時:2019年7月31日(水) 16:00～17:00  
場 所:三友株式会社  
内 容:有料セミナー講師交渉進捗報告及び、追加題材案等  
出席者:5名
- ◇活動予定
- (1)第236回定例会 8月度「人こよみ・語りべ」  
日 時:2019年8月22日  
17:30(受付)  
18:00～18:15 定例会  
18:20～19:00『人こよみ・語りべ』  
櫛引則彦氏  
場 所:(株)フォトロン

■ソフト制作研究委員会(吉田委員長)

- ◇活動報告
- (1)8月「定例会」及び「勉強会」  
日 時:2019年8月19日(月)

18:00～ 定例会(スタジオ・エコー  
会議室)、各種報告、今後の  
勉強会等についてプレスト  
19:00～ 勉強会 テアトル・エコー公演  
『バグ・ポリス』観劇(エコー劇場)

参加者:7名

- (2)InterBEE 2019 JAVCOMブース出展  
プロモート(広報出版と協業)  
日 時:2019年7月30日(火)  
場 所:銀座サクラヤ(信田氏、太田氏)訪問  
InterBEE期間中のプロジェクトア  
貸与を承諾頂く
- (3)第三回出展打合せ  
日 時:2019年8月20日(火)  
◇活動予定  
(1)9月or10月 勉強会(7/2打合せ⇒日程調整中)  
「モーショキャプチャースタジオ勉強会」(株)  
ダイナモピクチャーズ

4. 第194回常任幹事会報告(森澤常任幹事長)

日 時:令和1年8月21日(水)  
16時30分～17時30分  
場 所:麹町区民館 洋室B  
議 題:

- (1)協会催事
  - ①第156回有料セミナー進捗状況
  - ②InterBEE2019出展準備状況
  - ③JAVCOM忘年の集い&新春セミナー  
準備状況 総会見積比較
- (2)各委員会報告
- (3)7月度収支報告
- (4)その他 事務局報告  
次 回:第195回常任幹事会  
日 時:9月24日(火)16時30分～17時30分  
場 所:一番町集会室 洋室A

5. その他 (事務局・寺林運営委員長)

- 事務局(梶事務局長)
  - (1)第155回特別セミナー講師富山氏へ  
JAVCOM NEWS送付
  - (2)第156セミナー後援承諾  
全16団体⇒13団体承諾
  - (3)法人代表者確認書 全62社⇒45社提出  
未提出17社(8/13再々送付)
  - (4)JAVCOMクラシック案内 (8/15送付)

寺林運営委員長

- (1)運営会議提起事項  
①第264回運営会議提起事項状況報告及び検討実施
- ②第265回運営会議提起事項状況報告及び検討実施
- ③第260回運営会議提起事項「セミナー等の雛型をクラウド上にアップ」状況報告及び検討実施

次回常任幹事会

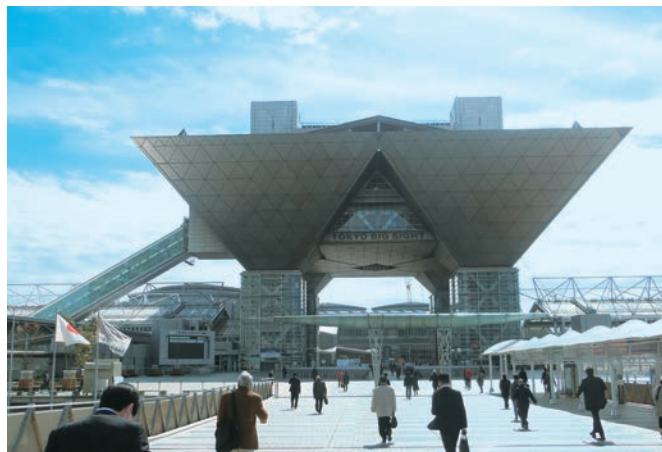
9月24日(火)16:30～ 一番町集会室 洋室A  
10月23日(水)16:30～ 麹町区民館 洋室C 予定  
次回運営会議  
9月24日(火)18:00～ 一番町集会室 洋室A  
10月23日(水)18:00～ 麹町区民館 洋室C 予定



5/30 - 5/31 東北映像フェスティバル2019 仙台国際センター



7/10 - 7/11 第4回 関西放送機器展 大阪南港ATCホール



7/17- 7/19 通信・放送Week 2019 東京ビッグサイト



7/31- 8/1 九州放送機器展2019 福岡国際センター

